

VI 開発教育指導者研修(実践編) 第4回

■ 開催概要

- ◆ 日時：2017年2月11日(土) 10:00～18:00
- ◆ 場所：JICA 中部 なごや地球ひろば2階 セミナールームA
- ◆ 参加者数：受講者38名、JICA3名、NIED6名、オブザーバー3名、合計50名
- ◆ ファシリテーター：(特活) NIED・国際理解教育センター 伊沢令子氏

■ 第4回のねらい

★ 開発教育・国際理解教育をつなげよう

- ① 第3回以降、研修での学びを基にした各自の実践を共有する。
- ② 1年間を通じた研修の成果を共にふりかえる。
- ③ 研修成果と実践を一般市民に向けて参加型で提供し、次へとつなぐ。

■ プログラムの内容

● セッション1 「研修ふりかえり」 10:02-10:58

1. 主催者あいさつ／講座全体及び第4回のねらいの確認 10:02-[09]

- ◇ JICA 中部倉坪職員が開会を宣言し、第4回にオブザーブ参加する JICA 東京、九州、中部メンバーの紹介を行った。
- ◇ 研修全体の目的と第4回のねらいをファシリテーターが説明し、確認した。

2. アイスブレイキング～自己紹介 10:11-[15]

- ◇ オブザーバーも加わり、4人1組のグループを作った。
- ◇ 「2016年を漢字1字に表すと」「2017年への抱負を漢字1文字で表すと」「自分に関する最近のトピックス」をテーマに、グループで自己紹介を行った。
- ◇ ファシリテーターコメント…この研修では、毎回テーマを換えて自己紹介を行い、自分への理解も深めながら進めた。自己理解を進めるのも、開発教育・国際理解教育において大切な事である。



3. 第1回～第3回研修のふりかえり（「ねらい」「成果物」「まとめ」の視点から） 10:26-[32]

- ◇ 第1回～第3回研修の記録（ねらい・成果物をまとめたダイジェスト版）を各自読み、「この研修を通して自分が学んだこと3つ」「この研修を通して自分が変化したこと3つ」をA4用紙に書き出し、グループ内で共有した。オブザーバーは、記録を読んだ感想を伝えた。
- ◇ ファシリテーターコメント…参加型ワークショップの中で、書く作業を多く取り入れてきた。頭で分かっている事ができるようになるには意識化が必要であり、そのためには書く作業が有効である。

● セッション2 「実践の共有①」 10:58-12:19

1. 実践の共有 10:58-[15]

- ◇ グループメンバーの実践報告シートを各自読み、「ここいいね!」「もっと聞きたい」と思ったことをピックアップした。
- ◇ ファシリテーターより実践報告の時間配分を説明し、翌日行われる「実践報告フォーラム2017」の準備でもあることを伝えた。



<実践報告の時間配分>

発表者の持ち時間を14分とし、9分以内でプレゼンテーションをし、残りの時間～14分までで質疑応答を行う。



2. 実践報告+Q&A 11:13-[59]

◇ グループ内で1人ずつ順に14分の持ち時間を使って報告を行った。

3. 開発教育・国際理解教育のポイント 12:12-[03]

◇ ファシリテーターから、改めて開発教育・国際理解教育教材のポイントを伝え、全体で確認した。

<開発教育・国際理解教育のポイント>

- ① プログラムは“ねらい”が大事！
 - ・プログラムを通して「何を知ってほしいのか」「何に気づいてほしいのか」「何を考えてほしいのか」「どんな行動につながるといいのか」
- ② プログラムは“流れ”が大事！
 - ・ねらいを達成するための段階的なストーリーがあるか
 - ・参加者の意識の流れに沿ったストーリーになっているか
- ③ 参加型は、教えるのではなく“引き出す”ことが大事！
 - ・問いかける
 - ・参加型の枠組み（個人で考える、グループで考える、みんなで共有する）で考えてもらう
- ④ 参加型の国際理解教育は“気づきを行動につなぐ”ことが大事！
 - ・「知り、考え、気づく」と「気づき、考え、行動する」を、経験学習の4段階でつなぐ

<経験学習の4段階>

- 体験する
やってみる、考えてみる
↓
- ふりかえる
気づいたことや感想を共有する
↓
- 一般化する
分かっていること、言えることをまとめる
↓
- 応用する
役立つこと、できること、したいことを考える

◇ ファシリテーターコメント…段階的、かつ参加者の意識の流れに添ったストーリーがあると、参加者は受け入れやすい。ねらいを達成するための段階を経験学習の4段階に沿って組み立てること、アクティブラーニングになっていることが大切である。

4. グループ替え 12:15-[04]

◇ 午後からのワークのためのグループ替えを行った。オブザーバー以外、受講者のみで1～4の番号を振り、指定の机に移動した。

- 休憩 - 12:19-[61]

● セッション3「実践の共有②」 13:20-14:28

1. 実践の共有・実践報告+Q&A 13:20-[66]

◇ 新しいグループにて、セッション2-2と同様に実践の共有と報告、質疑応答を行った。

2. グループ替え 14:26-[02]

◇ セッション4に向けたグループ替えを行った。ファシリテーターが1～8までの番号を振り、指定の机に移動した。

- 休憩 - 14:28-[05]

● セッション4「実践報告フォーラム2017のための準備①」 14:35-16:56

1. 自己紹介 14:35-[07]

◇ 「実践をして良かったこと」をテーマに、グループ内で自己紹介を行った。

2. 開発教育・国際理解教育のできるこゝ～実践を通じた成果・よい影響（自分／学習者／周囲）～ 14:42-[17]

- ◇ 研修と実践を振り返り、開発教育・国際理解教育のできるこゝとして得られた成果・よい影響（自分／学習者／周囲：同僚・保護者・地域など）をグループで話し合い、模造紙に表形式にまとめた。
- ◇ 模造紙の回し読みにより共有し、良いと思うアイデアに☆印を付けた。



【 開発教育・国際理解教育の実践で得られた成果・よい影響（自分／学習者／周囲）のまとめ 】

① 自分にとって

- ◇ 視野・価値観…世界が広がった／視野が広がった／価値観が変わった／選択肢が増えた／考え方の幅が広がった／新しい気づきがあった
- ◇ 多様性…多様性を再認識した／違う視点で相手を見ることができた／違いを認められるようになった
- ◇ 社会・世界への関心…世界への関心がより高まった／フェアトレードや産地に敏感になった／よりよい未来のために、”わたし”にもできることはある！
- ◇ 参加型…参加型・アクティブラーニングの手法が分かった／参加型への意識が高まった／いろいろなアクティビティを実践できた、知ることができた
- ◇ 授業…授業の考え方が変わった／授業のねらいを重視するようになった／授業のスキル（引出し）が増え、幅が広がった／授業の可能性に気づいた／授業をするのが楽しくなった
- ◇ 子ども・生徒…新しい生徒の姿を見た／子どもの新たな可能性に気づいた／子どもの力を信じた
- ◇ 経験・スキル…知識が増えた／成功も失敗も体験した／プレゼン能力向上／次へのステップになった／楽しめた
- ◇ 意識・行動の変化…情報を集めるようになった／やる気が出た／もっと学びたいと思うようになった／生活を見直すきっかけになった／考えが整理できた／自分について考えるようになった／自己理解が深まった／自信につながった
- ◇ 出会い・つながり…一緒に活動する仲間ができた／受講者同士つながることができた／開発教育・国際理解教育に関わっている人との出会い

② 学習者にとって

- ◇ 視野・価値観…世界が広がった／視野が広がった／価値観が変わった／他の人の考えや意見を知って、自分の幅が広がる
- ◇ 多様性…多様な考えを知ることができた／他人の考えを知ることを楽しんだ／友達の意見を大事にするようになった／お互いを肯定できるようになった／認め合い→嬉しい／受け入れることの大切さを知った／多様性の大切さに気づくことができた
- ◇ 社会・世界への関心…世界、社会的課題について興味を持った／日本（自国の文化のいいところ）にも興味を持った／海外への不安が減り、興味が増えた／国際貢献に関心を持った／身近なこととして捉えることができた
- ◇ 参加型…全員参加できた／グループ活動に慣れた／派生図が上手になった
- ◇ 授業…授業を楽しみにするようになった／教科書以外の知識を得た／他の教科への学習意欲が上がった
- ◇ 子ども・生徒…勉強が苦手な子も活躍できる
- ◇ 経験・スキル…意欲的、積極的に取り組めた／真剣に考えた／思考力や判断力 UP／聞く姿勢がついた／知らない世界を知ることができた／知識の広がり／話し合いがスムーズになった／やってみることの大切さを知った／楽しめた
- ◇ 意識・行動の変化…行動力がついた／進んで意見を言えるようになった／知ろうとするようになった／疑問を持つようになった／環境に負荷をかけないよう気をつけるようになった／「持続可能な」が合言葉になった／言葉遣いに気をつけるようになった／自分、日本についても知った／自分の考えを持つことができた／自信を持てた
- ◇ 出会い・つながり…出会いの場になった／他者との関わり合いが増えた／外国の子の友達ができた

③ 周囲（同僚・保護者・地域など）にとって

- ◇ 社会・世界への関心…職員間で世界についての話ができた
- ◇ 参加型…職員間にも参加型アクティビティへの興味が広がった
- ◇ 授業…巻き込んで一緒に授業／他のクラスと一緒に参加型実践／教材の共有

- ◇意識・行動の変化・ESD部という分掌ができた／教員が開発教育・国際理解教育の大切さに気づけた／「こんなことできるの？」と思ってもらえた／教師海外研修・実践報告フォーラムに行きたい教員が増えた／教師海外研修の訪問国（パラグアイ・エチオピア）に興味を持つ人が増えた
- ◇周囲の理解・広がり…他の職員に授業を見てもらい、開発教育・国際理解教育への理解を深めた／興味を持つ人が増えた／バラバラだった国際理解がつながった／同僚の理解、協力を得られた／保護者の理解／保護者から海外の話がされるようになった／自分の興味のあることが良い意味で伝染していった／教師海外研修訪問国の子ども達にも日本のことを少し知ってもらえた

- ◇ファシリテーターコメント…☆印がついたものは、自分たちのグループでは出なかったアイデア。他の人から学ぶことが参加型の良さ。成果部や効果など、具体的に示すことができれば、説得力をもって周りに伝えていくことができ、学びの好循環を広げていける。

2. アクティブ・ラーニングに使える！よりよい参加型を進めるファシリテーターのあいうえお 14:59-[17]

- ◇1グループに50音を5文字ずつ割り振り、講義形式の授業をアクティブラーニングにするために大切なことは何かをグループで考え、割り振られた五十音を頭文字にした文章にまとめた。「や」「ゆ」「よ」「わ」「ん」については、NIEDが作成し、作業のサンプルとして受講者に提示した。

【アクティブ・ラーニングに使える！よりよい参加型を進めるファシリテーターのあいうえお】

あ：焦らず慌てず、参加者の力を信じて！	は：発言は、みんな平等聞き合おう
い：いろいろあるから広がる世界	ひ：1人じゃない！みんなの頭で考える
う：うんうん、そのうなずきがホッとする！	ふ：ふと思ったことは、実は重要。みんなで共有！
え：笑顔だけ忘れなければ大丈夫！	へ：へえ～！そんな考えあったんだ
お：お互いを否定せずに認め合う	ほ：ほんの少しの勇気を出してチャレンジしてみよう！
か：書いてみよう！感じたこと、考えたこと	ま：巻き込もう！みんなで作る、明るい未来☆!!
き：聞いてみよう！わたし、あなた、みんなの気持ち☆	み：みんなで楽しく取り組もう!!
く：国を超え、世界の課題を解決しよう	む：ムリをせず、参加者信じて考えよう
け：経験しよう！体験しよう！アクティブに！	め：「めんどくさい」そんなことはない！やってみよう!!
こ：肯定的に受け止めよう、私の国、あなたの国	も：「もう一声！」次につながるその言葉
さ：参加者全員参加で楽しもう。	や：やわらかで心地よい場を大切に
し：信じよう、仲間の言葉と自分の考え。	ゆ：ゆっくりとこだわるところは時間をかけて
す：スマイルで、参加者の心引きつける。	よ：よく学ぼう。引き出しが増えて使い分けできる
せ：世界へと、広げよう自分の目	ら：ラッキーだ!! 今日みんなで参加型☆
そ：「そうだよね。」と、共感し合える仲間たち	り：リスペクト!! お互いを認め、協力しあおう!!
た：楽しもう、自分参加者その時間を	る：ルールは1つ、否定しない!!
ち：近づける、私とあなたの心の距離♥	れ：連携大事。相手の意見をよく聞いて!!
つ：つつがなく、司会進行大事です。	ろ：ロマンチックに!! 新しい世界との運命の出会い☆
て：テーマ決め、それが授業の決め手なり！	わ：ワイワイと、アイスブレイクで盛り上げる
と：時計を見てね。タイムキーパー大事だよ。	ん：ん！そうか、それもありがた受け止める
な：仲間を作ろう、国際理解教育。	
に：にこにここと、意見聴くとき傾聴を。	
ぬ：盗んでいいのはスキル、教材、そして…	
ね：ねらいうち^^ 目標を持って取り組もう!	
の：NO!は無し! 皆の考え受け入れよう!	

- ◇ファシリテーターコメント…知識があっても社会は変わらない。社会を変えるためには、他者と共に身につけた力を活用することが大切であり、それを支える教育が必要。アクティブラーニングとは、学習者が積極的かつ能動的に学ぶことであり、開発教育・国際理解教育の参加型である。

3. 実践報告フォーラム 2017 の進め方と個々の動きの説明 15:16-[19]

- ◇ 配付資料「実践報告フォーラム 2017 のプログラム」と昨年度の写真（パワーポイント）を基に、当日のプログラム、受講者の動き、ポスターセッションの場所と方法、申込者の状況について事務局が説明した。

4. 実践報告フォーラム 2017 についての確認事項 15:35-[72]

- ◇ 分科会ワークショップ担当メンバーから、ワークの一部を提供する形で内容の共有を行った。
- ◇ 海外研修発表の順番を決めた。
- ◇ 実践報告フォーラム 2017 の最後に挨拶をする研修受講者代表者を、事務局推薦により決めた。
- ◇ 実践報告フォーラム 2017 を通して、「参加者に持ち帰ってほしいこと」をグループでまとめ、全体で共有した。

【フォーラムで参加者に持ち帰って欲しいこと】

◇開発教育・国際理解教育の可能性 ◇参加型の手法を増やしてもらおう ◇ワークワークショップ（ワクワク×ワークショップ） ◇世界は身近な存在だと感じてもらう ◇広めたい、伝えたいという気持ち ◇海外研修への興味 ◇ やってみようという気持ち ◇自分にもできる ◇同じ志を持つ仲間の熱意 ◇新しい仲間作り ◇あー楽しかった！ ◇また来たい！ ◇開発教育・国際理解教育に関心のある教員に優しくなる気持ち

- ◇ これらを持ち帰ってもらうために自分自身が期待することは何か、また、貢献できることは何かを各自考え、グループ内で発表した。

5. 研修のふりかえり 16:47-[09]

- ◇ グループから1名を選び、研修全体を振り返った感想を全体へ発表した。

【研修全体の感想】

◇興味はあったが、開発教育が何かわからない状態からのスタートで、実践も手探りだった。他の受講者の実践が参考になった。実践したプログラムを改良して、もっといいものにしていきたい。

◇同じ志を持った仲間に出会えたことが一番嬉しかった。どんなテーマの話でも心地よく話し合えた。

◇授業をすることが楽しくなった。明日の実践の様子を聞くことが楽しみ。

◇仲間との出会いが財産。昨年度、フォーラムに参加して、今年度は研修に参加した。職場でも共感してくれる人が増えた。多くの人に関心を持ってくれるといい。

◇教員ではない立場で参加した。熱い人たちに出会えると聞いていた。想像以上だった。刺激を受けたことが財産。他の受講者から受けた志を、自分の仕事に生かしていきたい。

◇勤務校で、開発教育・国際理解教育はほとんど取り入れられていない。この研修で、たくさんの人と考えを共有し、やりたいと思っていた思いを全部出すことができ、子どもたちというんなことを考えることができた。これからも続けて広めていきたい。

● セッション5「フォーラムのための準備②」 16:56-18:00

1. 海外研修報告／有志ワークショップ／個人の実践報告の準備及び相談 16:56-[63]

- ◇ 実践報告の準備と会場設営を行った。
- ◇ 分科会ワークショップ担当者は別の指定の会場に移動し、それぞれ打ち合わせを行った。

★ 18:00 終了